

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 1 月 11 日作成)

小委員会名	レジリエンス構造設計小委員会	主 査 名：朝川 剛 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)	委員長名：五十田博 主 査 名：山川 誠
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築構造設計では、経済性の観点と同時に、想定外の外乱に対する安全性や被災後の復旧のしやすさ・復旧までの時間なども重要な検討課題である。近年、被災時の復旧力を総合的に考えるレジリエンスを、建築設計に導入する方法が取り上げ始めている。本小委員会では、建築構造設計を対象として、レジリエンスの考え方と実際の構造設計への導入方法について、研究者と実務設計者とで議論する。建築設計におけるレジリエンスの概念を定性的かつ定量的に評価する研究は始まったばかりであり、さらに、建築構造設計に陽に取り入れようとする研究は、今後の発展が期待される。</p> <p>初年度： 前身の小委員会で議論したレジリエンスと構造設計に関する研究成果を大会 PD で公表する。あわせて、出版物として公表することを目指し、原稿を作成する。</p> <p>2 年度： 構造物のレジリエンスを定量化する指標や、構造設計への具体的な導入方法について調査研究を行い、可能であれば具体的な種々の形態を有する構造物モデルについて適用した結果を示す。</p> <p>3 年度： レジリエンスを導入した構造設計について議論を継続しつつ、前年度までの調査研究の成果を、セミナーとして公表することを目指し、セミナーを企画する。</p> <p>4 年度： レジリエンスを導入した構造設計に関するセミナーを開催する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：朝川 剛 (東京電機大学) 幹事：高田豊文 (滋賀県立大学) 委員：磯部大吾郎 (筑波大学)、伊藤拓海 (東京理科大学)、寒野善博 (東京大学)、竹脇 出 (京都大学)、谷 翼 (大成建設)、趙 衍剛 (神奈川大学)、中村尚弘 (広島大学)、福田隆介 (鹿島建設)、村瀬 充 (清水建設)、山川 誠 (東京理科大学)、山本雅史 (竹中工務店)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2021 年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：—

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	

<p>大会研究集会</p>	<p>1. PD：レジリエンスに着目した建築構造設計とは？ 参加者数 139 名 『構造部門（応用力学）パネルディスカッション資料：同上』</p>
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. レジリエンス構造設計に関する研究成果を大会 PD で公表した。 2. 上記研究成果に付加しながら出版物での公表に向け各委員より研究成果や実務的課題などを発表してもらい、レジリエンス構造設計に関する研究情報を充実させる途中段階であり、次年度も含め活動を活発化させる必要がある。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 小委員会内での議論にとどまらず広く成果を公表し、レジリエンスの指標などについて一般的な認知を高める必要がある。 2. 議論を活性化させかつ今後成果を広めるために、現状以上に若手や民間企業から幅広く委員を集める必要がある。公募も含め検討したい。</p>